HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	技術報告 ： 札幌農学校130周年記念行事「農学・農場のあゆみ」について
Author(s)	若澤，幸夫；河合，孝雄；佐藤，浩幸 他
Citation	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター生物生産研究農場技術業務報告，7，82-90
Issue Date	2007-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/34526
Type	departmental bulletin paper
File Information	7_p82-90.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

技術報告

札幌農学校130周年記念行事
「農学・農場のあゆみ」について

若澤幸夫・河合孝雄・佐藤浩幸・市川伸次・中野英樹・八巻憲和・葛間風花子・和田友則

1.はじめに

2006年は、北海道大学の前身である札幌農学校が開学して130周年にあたります。農場は、農学部附属農園、農学部附属農場、そして現在の北方生物圏フィールド科学センター耕地圏ステーション生物生産研究農場として、北海道大学の誇るべき歴史の中を本学の農学の発展と共に歩んで来ました。

2006年10月20日（金）に、『農学の発展と研究農場の歩み』と題して、教育研究を支えた一連の農業作業機器の変遷を紹介し、全学及び市民の一層の理解を深める一連の行事を開催しました。この行事は本センターと総合博物館が主催し農学部・札幌農学振興会の共催で実施されました。ここで、パレードをはじめとする一連行事の企画・実施概要を技術業務報告の紙面をお借りして報告します。

なお、当日行われた行事は、次の通りです。

1) 学内トラクターパレード（12時～13時）

3頭の馬（北海道和種馬）を先頭に馬車（笹賀一郎フィールド科学センター長、藤田正一総合博物館長、諏訪正明農学研究院長および荒木　肇農場長乗車）、50年前に導入したフォードソンメージャートラクタから最新のロボットトラクタ、そして圃場をリモートセンシングする産業用無人ヘリコプタが隊列を作ってメインストリートを行進しました。

2) モデルバーン説明（13時30分～15時）

モデルバーン前庭で最新鋭農業機器の展示と解説が行われ、その後、モデルバーン施設の詳細な説明が大久保正彦農・名誉教授や近藤誠司副センター長らにより行われました。

3) 学術講演会（15時～17時）

遠友学舎で学術講演会が開催され、荒木農場長が「北大農場の歴史を振り返り，今日の役割を考える」と題して、特に地域連携と現代の研究教育のあり方を説明しました。髙井宗宏総合博物館研究員が「北海道農業の生産合理化と札幌農学校の貢献」と題して、農業機械化を通じて実践農場としての歴史を解説し、北海道開発の中で札幌農学校が果たした功績を説明しました。

4) 祝賀会（17時30分～19時30分）

研究農場の元職員や岸浪副学長も参加して、「“フォードソンメージャートラクタ” 導入50年」と「農学校130周年」の祝賀会を開催しました。いにしえの札幌農学校に思いをはせるとともに今後の発展を誓い、「都ぞ弥生」の合唱で幕となりました。

2.準備・実施体制

行事を準備・実施するために荒木農場長と技術職員 8 名で実行委員会を立ち上げました。なお、近藤副センター長から、馬・馬車の手配をはじめ様々な協力・助言を賜りました。また土本専門員、堀川庶務係長、今村学術協力係長、谷口専門職員をはじめとするセンター事務部には、対外的な折衝や助言、備品の手配等で協力を賜りました。当日のパレード実施に際しては、農場教員・技術職員・技能補佐員とセンター事務部・森林圏管理技術室・情報技術室の職員、ビークルロボティクス研究室、作物生産システム工学研究室、農場研究室及び畜牧体系学研究室の教員・学生・院生、北大交響楽団や農場で活動する学生サークルの全面的な協力を得ました。

実行委員の主な役割分担は、次の通りです。

1) 案内状発送・集約及び祝賀会の準備

河合　孝雄、中野　英樹

2) ポスター・パンフレット

佐藤　浩幸、葛間　風花子

3) パレード（パネル作成及び交通整理の備品手配等）及び学術講演会の準備（看板・横断幕等準備）

若澤　幸夫、市川　伸次、佐藤　浩幸、和田　友則

4) モデルバーン案内準備

八巻　憲和、葛間　風花子

3. 広報

ポスター（図 1）を作成し総合博物館を通じ学内部局に配布しました。大学公式 HP など学外への情報発信は、庶務係を通じ行いました。元農場長・農場退職者および学内関係者の方には、祝賀会を含む一連の行事について案内状を送付しました。

パレードの隊列、ビークルロボティクス研究室・作物生産システム工学研究室で行われている最新の農業機械についての研究紹介や学術講演会要旨を掲載したパンフレットを作成しました。カラー印刷で 500 部と白黒印刷で 500 部を刷りパレード経路と学術講演会会場で配布しました。また、作成にあたっては技能補佐員の冨田久美子さんのご協力がありました。

新聞各紙に取り上げられ、読売・朝日には、予告記事が掲載されました。開催翌日の 21 日朝刊には、北海道新聞の一面に写真付きで掲載され、朝日・毎日にも掲載されました。

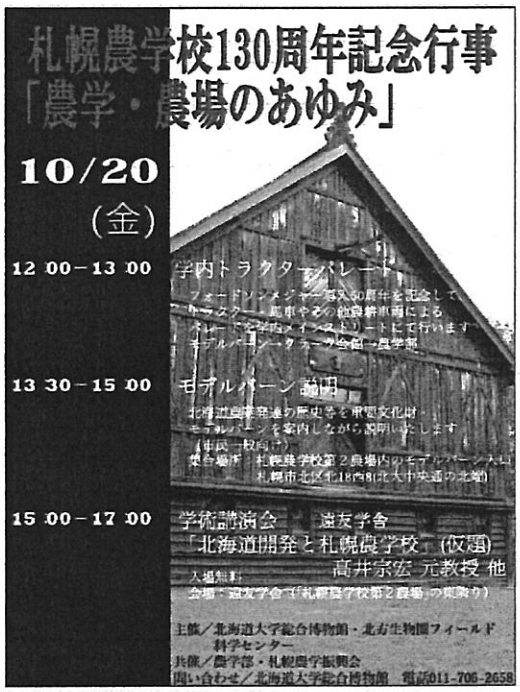


図 1　ポスター

4. 学内トラクターパレード

(1) 隊列

隊列は表１に示す通りに決めました。先導車（森林圏より借用したステップワゴン）、３頭の北海道和種馬を先頭に馬車１台（近藤副センター長が手配した業者所有）とトラクタ10台の隊列としました。農作業の変遷として畜力からトラクタそして最新の農業機械研究の成果までを体現するように考えました。そのためビークルロボティクス研究室と作物生産システム工学研究室には全面的な協力をしていただきました。

農場研究室所属の院生・学生と畑サークル学生にトラクタパレードに華を添えるようなものをと相談したところ４のF6610がけん引するデコレーションダンプと11のF5000がけん引するデコレーションワゴンの製作を引き受けてもらいました。３のMF3050がけん引する楽団ワゴンは、聴覚にも訴え賑やかにしたいと北大交響楽団に演奏を依頼しました。動くものの上での演奏という過酷な環境でしたが引き受けていただきました。馬車の次のMF6265は、フロントローダに路上に落ちた馬糞を入れるために配置しました。

(2) 経路と交通整理

経路および交通整理等については、施設部と相談して決めました。いかに昼休み時間帯に中央道路を車両通行止めにしないでパレードを混乱なく実行するかということです。馬・トラクタが全て連続で隊列を組んでいくと非常に長い列となってしまいます。学内循環バスも走る状況だと大渋滞を招く恐れがありました。このため表１の４つの枠（ユニット）に分割することにしました。各ユニットの前後に交通整理員を配置、トランシーバで連絡を取り合う体制をとり、ユニット毎の間隔をあけ間に一般車両を一時的に滞留させるようにするようにしました。

経路を当初、モデルバーンから中央道路を経由して事務局・正門前でＵターンして農学部玄関前

表１　パレード隊列

トラクタ名	作業機	運転者
０先導車（ステップワゴン） 乗馬３頭(近藤　誠司・今村	横断幕「札幌農学校130周年記念トラクタパレード」 浩史・青柳　由紀子)	中野　英樹
１馬	馬車	業者
２MF6265	フロントローダ	平　克郎
３MF3050	楽団ワゴン	八巻　憲和
４F6610	デコダンプ　農場学生製作デコレーションワゴン	角田　貴敬
５FM（フォードソンメージャー）	グレーンドリル	茂木　紀昭
６イセキTGS33	土壌サンプリングマシン	農工院生（斉藤）
７ヤンマーUS550	真空播種機	農工院生（佐藤）
８産業用無人ヘリコプタ		農工院生
９ロボットトラクタ３号機		農工院生
10ロボットクローラトラクタ		農工院生
11F5000	デコワゴン　畑サークル製作デコレーションワゴン	高虫　慧子

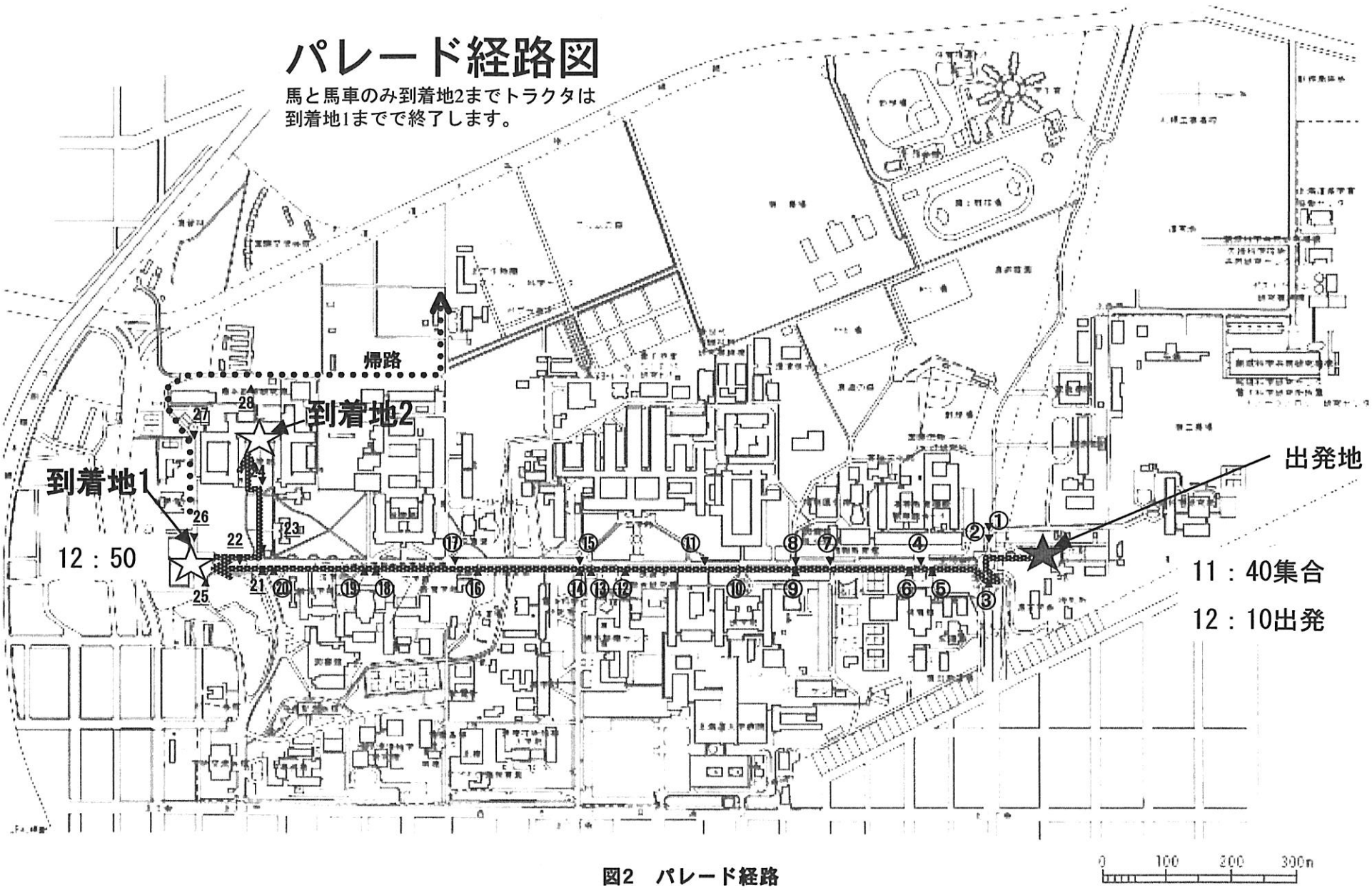

北海道大学施設配置図
S=1/7,500
パレード経路図
馬と馬車のみ到着地2までトラクタは
到着地1までで終了します。
帰路
到着地2
到着地1
12：50
出発地
11：40集合
12：10出発
0
100
200
300m

図2　パレード経路

までと考えました。しかし、施設部とのやりとりで事務局・正門前でのＵターンするとき正門から入構する車両をどう処理するかなど課題が浮かび上がりました。最終的には図２に示す通りとなりました。乗馬３頭と馬車はモデルバーンから中央道路経由クラーク会館でＵターンして農学部玄関前まで、その他のトラクタはクラーク会館前までとしました。農学部前の道路の幅・形状から隊列全てを農学部玄関前に向かわせるのは難しいと判断しました。当日、慌てたことがありました。モデルバーン前の芝生の一部が養生中で重い車両が走行したら芝生を痛める恐れがあるとういこうを知ったの

表２　交通整理その他分担

進行係：市川　伸次

配置番号	交通整理	ユニット配置	
1	ユニット後	Ａト　市川　伸次	＊パンフレット配布
2 棒	桃山　光樹	Ｂト　假屋　洋人	酒井　奈々
3	業者Ａ	Ｃト　高橋　太郎	伊藤　竜也
4	渡邊　武彦	Ｄト　橋本　哲也	山野　裕子
5	村岡　健一郎	Ｅト　山田　恭裕	蔭山　千寿
6	中山　陽佑	Ｆト　高橋　誠	＊写真撮影
7	前原　萌子	Ｇト　平田　聡之	荒瀬　幸子
8	業者Ｂ	Ｈト　星野　洋一郎	太田　愛子
9	宮下　朋美	Ｉト　原田　誠	藤田　秀男
10 棒	土本　力生		＊馬の糞処理
11 棒	和田　友則		畜牧体系学学生数名
12	辻田　茉莉		＊パレード隊と同行交通整理
13	佐藤　浩幸		Ｊト 若沢　幸夫
14	業者Ｃ		河合　孝雄
15 棒	日置　昭二		＊パレード案内（スピーカ）
16 棒	井上　義彦		山田　敏彦
17	業者Ｄ	腕章は全員	
18	堀　　廣孝	ト ＝　トランシーバ	
19	生田　稔	棒 ＝　交通整理棒	
20	羽根　詩織		
21	業者Ｅ		
22 棒	越智　亨		
23	左海　賢志		
24	浦山　勝		
25 棒	葛間　風花子		
26	桃山　光樹		
27	渡邊　武彦		
28	村岡　健一郎		

です。このため出発地点を変更しました。乗馬・馬車は、予定通りモデルバーンからとしましたがけん引車両のあるトラクタは旧大家畜車庫前からその他のトラクタは遠友学舎前の道路からとしました。

交通整理員を図2の数字で示す箇所に配備しました。配置番号3・8・14・17・21の素人では対応が難しいと思われる箇所は業者（警備会社）に依頼しました。当日の交通整理では業者の方に臨機応変に対応してもらい助かりました。なお、交通整理その他分担は表2にまとめた通りです。

（3）出発時刻と到着時刻

出発時刻は、高等教育機能開発総合センターの講義を 12 時で終えた学生が建物から出てくるのが落ち着くと思われる 12 時 10 分としました。MF6265 にフロントローダ、F6610 にロータリを装着し、FM で低床トレーラをけん引し、実際の 1 ユニットの形態に模してパレード当日と同じ金曜日（10 月 13 日）の同時刻に出発して検証しました。先頭を走る乗馬・馬車の速度をどう設定すればよいか悩みましたが時速 4km で走行して通過時刻を計測し、人・自転車・自動車の流れをみるためビデオ撮影しました。この結果を踏まえ通過予定時刻を以下の通りとしました。また、構内循環バス時刻を調べこのバスを優先的に追い越させることとしました。この他の要点として次の通り決めました。

*ワンユニット長さ 25m～30m　　ユニット間の車間は 100m とする。
*モデルバーン　先頭車出発時間 12 時 10 分　最後尾車 12 時 20 分
*クラーク会館　先頭車到着時間 12 時 30 分　最後尾車 12 時 40 分

先導車通過予定時刻（数字は、図 2 の箇所を示す）

モデルバーン出発 12:10――――⑤通過 12:12――――⑧通過 12:15――――⑭通過 12:20――――

⑰通過 12:24――――――21 通過 12:28――――――農学部到着 12:34

構内循環バス時刻表

獣医	体育館	医学部	歯学部	教育学部	経済学部	事務局
12:15	12:18	12:19	12:20	12:21	12:22	12:24
12:45	12:48	12:49	12:50	12:51	12:52	12:54

事務局	クラ館	理学部	工学部	高等教育センター	獣医
12:30	12:32	12:33	12:34	12:36	12:39
13:00	13:02	13:03	13:04	13:06	

当日は、想定外のゴミ収集車が出現し対応に苦慮する場面がありました。また、隊列が詰まり過ぎるなど若干の時間の遅れが生じました。しかし、概ね予定通りといえる出来だったと思います。

（4）のぼり

パレードの際には、楽団やデコワゴンで賑わいを出そうということで計画を進めていました。しかし、まだ視覚に訴えるものがまだ足りないのではとなりました。そこでのぼりのアイデアが出てきました。北大生協と相談したところ前日までに納品できるということだったので発注しました。1 台に 2 本ずつ計 20 本用意しました。デザインは、緑地に白抜きで北大のシンボルマークと『北大農場』としました。

（5）看板の製作

パレードの時に使用する車両用看板、案内板や講演会・祝賀会の看板は、情報技術室のプリンターで印刷し展示用ボード等に貼付けて製作しました。また、立て看板等は農学部より借用しました。製作にあたっては、技能補佐員の鳥海信子さんのご協力がありました。

（6）全員による打ち合わせ

パレード前日には、トラクタ運転者及び表 2 の交通整理その他分担者による最終打ち合わせを実施し、相互の連絡や注意事項の確認を行いました。

5.モデルバーン説明

展示のためパレード終了後、フォードソンメージャーとビークルロボティクス研究室及び作物生産システム工学研究室所有のトラクタ、産業用無人ヘリコプタはモデルバーン前に移動しました。

まず、最初にビークルロボティクス研究室の石井一暢先生と両研究室の院生による最新鋭農業機器（図 3 参照）の説明を行いました。その後、モデルバーン施設の詳細な説明が大久保農・名誉教授や高井総合博物館研究員、近藤副センター長、畜牧体系学研究室の中辻浩喜先生により行われました。

図 3　パンフレットの一部

6.講演会

会場は、遠友学舎の談話ラウンジです。音が反響するため全館貸し切りとしました。会場設営は、パレード終了後に担当者が行いました。

荒木農場長が「北大農場の歴史を振り返り，今日の役割を考える」と題して、特に地域連携と現代の研究教育のあり方を説明しました。高井総合博物館研究員が「北海道農業の生産合理化と札幌農学校の貢献」と題して、農業機械化を通じて実践農場としての歴史を解説し、北海道開発の中で札幌農学校が果たした功績を説明しました。

7.祝賀会

(1) 案内状発送・集約及び祝賀会の準備

古い職員録等を参考に農場教職員 OB 名簿を作成し一連の行事案内を送付しました。祝賀会には喜多名誉教授、八鍬名誉教授をはじめとする元教員 4 名と元職員 4 名の方に出席していただきました。この他、岸浪副学長をはじめとする学内関係者及び農学部・センター・農場教職員 35 名、農場研究室をはじめとする学生・院生 25 名が出席しました。

祝賀会の出欠の返信ハガキには、様々なメッセージが寄せられました。技術職員の高虫慧子さんと農場研究室の院生・学生の協力で、このメッセージや式次第を載せた“しおり”（図 4 参照）を作成しました。

会場は、遠友学舎での講演会が終了した後の移動が容易なところと考え、体育館の南隣の“はるにれ”の２階としました。

図４　祝賀会しおりの表紙

(2)　式次第

式次第は次の通りです。

開　会

挨　拶　　北方生物圏フィールド科学センター長　笹　賀　一　郎

　　北　大　博　物　館　長　　藤　田　正　一

祝　辞　　北　大　理　事　　副　学　長　　岸　浪　健　史

乾　杯　　北　大　名　誉　教　授（元　農　場　長）　　喜　多　富　美　治

資料のスライドショー

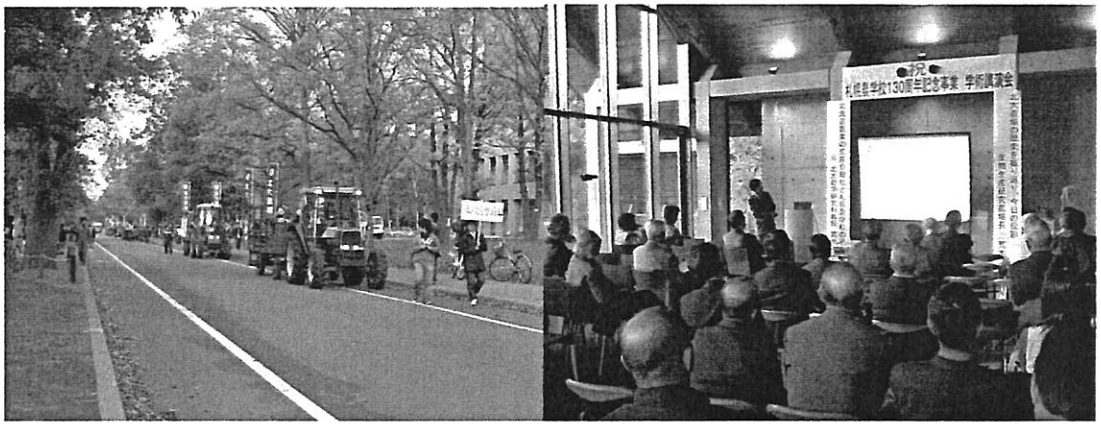
トラクタパレードビデオ上映

スピーチ　　八鍬利郎名誉教授、市川　伸次（農場技術職員）

　　中山　陽佑（農場院生）、山野　裕子（農学部学生）

閉会挨拶　　農学研究院長・札幌農学振興会会長　　諏　訪　正　明

8.おわりに

今回の行事は、学内中央道路を馬車・トラクタでパレードするという前代未聞ともいえる出来事だったと思います。この行事の企画・実施に私たちが携れたことは、私たち技術職員の大きな財産として残るでしょう。今後、さらに研鑽して農場の発展のために尽したいと思いました。最後に，本行事は本センターと総合博物館が主催し，農学部・札幌農学振興会の共催で実現できたのですが，北大交響楽団や農場で活動する学生サークルの協力，そして構内パレード時の各方面からの協力・支援にお礼申し上げます。

9.資料（写真）